





行動障害と虐待

東京都虐待防止・権利擁護研修
東京都社会福祉協議会 強度行動障害研修特別委員会 委員長
(社福) 同愛会
竹矢 恒



袖ヶ浦福祉センター虐待事件

2013年11月25日

社会福祉法人千葉県社会福祉法人
「県立袖ヶ浦福祉センター養育園」
の利用者（19歳男性）が夕食後、呼吸困難
となり救急病院搬送後、翌日亡くなる。

その後の調査で①日常的な虐待（職員5名）
があり、②亡くなった方以外の9名の利用者
にも虐待を行っていたことが発覚する。

2.提言・報告等

千葉県社会福祉事業団による千葉県袖ヶ浦福祉センターにおける
虐待事件問題、同事業団のあり方及び同センターのあり方について
（最終報告（答申））
（平成26年8月7日）

[PDF 答申概要\(PDF:135KB\)](#)

[PDF 答申全文\(PDF:496KB\)](#)

[zip 資料一式\(統合\)\(ZIP:4,557KB\)](#)

[zip 資料一式\(分割\)\(ZIP:4,906KB\)](#)



更新日:平成26(2014)年8月7日 [印刷](#)

千葉県社会福祉事業団問題等第三者検証委員会

県では、千葉県社会福祉事業団における<1>虐待事件及びこれまでの虐待事案の発生の経緯、原因、責任の所在、<2>業務管理の実態、<3>今後の組織のあり方等について、調査・検証を行うとともに、千葉県袖ヶ浦福祉センターのあり方について、検証を行うため、千葉県社会福祉事業団問題等第三者検証委員会を設置しました。

1.第三者検証委員会委員

(1)委員の選考

権利擁護の専門家や、今回事件のあった養育園等の袖ヶ浦福祉センターの当事者である知的障害等の利用者の保護者、連携協力が必要な福祉事業者、袖ヶ浦福祉センター利用者の障害特性に精通した専門家など、様々な立場の方を構成員とした。

(2)委員名簿(平成26年4月1日現在)

氏名	役職等	職種等
佐藤 彰一 (座長)	千葉県障害者虐待防止連携協議会副会長 弁護士 国学院大学法科大学院教授 千葉県障害者総合支援協議会権利擁護専門部会長	弁護士
村山 園	千葉県手をつなぐ育成会権利擁護委員会委員長	当事者(保護者) [知的障害]
大屋 滋	千葉県自閉症協会会長 旭中央病院脳神経外科部長	当事者(保護者) [発達障害]
早坂 裕実子	千葉県知的障害者福祉協会権利擁護委員会委員長 (福)まっど育成会法人統括施設長	事業者 [知的障害、発達障害]
宿藤 勝美	千葉県社会福祉協議会副会長	事業者 [福祉全般]
志賀 利一	独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園研究部長	学識経験者

福祉施設の暴行、施設長が上司に虚偽報告

知的障害のある児童らの福祉施設で、入所者の少年(19)が職員の暴行を受けた後に死亡した事件で、同施設の施設長が2年前に起きた職員2人による暴行を把握したが、上司のセンター長に「不適切な支援(対応)はなかった」と虚偽の報告をしていたことが分かった。

県は、同施設の指定管理者の社会福祉法人に対し、障害者総合支援法と児童福祉法に基づき、同園の新規利用者の受け入れを当分の間停止する行政処分と、施設長を施設運営に関与させない体制整備の検討などを求める改善勧告を出した。

県によると、施設長は立ち入り検査時には「暴行の報告はなかった」と説明。しかし、その後の県の調査に「報告があったことを思い出した。聞き取り調査したが虐待はなかった」と証言を覆した。

さらに、県が詳しく事情を聴くと、施設長は「もう1つ報告があったことを思い出した」として、平成23年に職員4人が虐待をしたとの報告があったと証言。このうち2人が暴行したと判断し、口頭注意したことを認めた。その後、施設長はセンター長に「不適切な支援はなかった」と事実と異なる報告をしたが、県は理由について「現時点では施設長に聞いていない」としている。

県はこれまでに、同施設の元職員5人が少年を含む入所者10人を日常的に暴行していたことを確認。別の職員3人も暴行した疑いが判明している。3回目の立ち入り検査では、新たに職員1人の暴行が確認されたほか、同施設や関連の障害者施設の職員計2人が入所者に暴行した疑いも浮上した。

(2013年 産経ニュース)

虐待防止・身体拘束廃止の観点から

(参考)

千葉県袖ヶ浦福祉センターにおける虐待事例について

【事案の概要】 昨年11月 上記センター(千葉県社会福祉事業団が指定管理者として運営)の強度行動障害を有する利用者が、職員から暴行を受けた後、病院に救急搬送され死亡

(※本年3月11日:当該職員は傷害致死容疑で逮捕)

※ 確認された状況

(平成16年度から平成25年度まで10年間)

○ 身体的虐待(暴行)

職員 11人 被虐待者 17人

○ 性的虐待

職員 2人 被虐待者 2人

○ 心理的虐待

職員 3人 被虐待者 4人

合計(実人数) 虐待者 15人 被虐待者 23人

(※この他に、虐待を行った疑義のある者3人)

1 人材育成や研修、職場環境、職員配置

(1)職員の資質や職場環境の問題

虐待(暴行)の原因の一つには、個人の問題として、支援スキルが不十分であり、また、虐待防止についての基礎的知識がない、ということが挙げられる。このため、支援に行き詰まり、行動障害を抑えるために暴行に至った面があることは否定できない。

例えば養育園第2寮の暴行した5人は、更生園で実施されているような行動障害に係る専門研修や、虐待防止に関する研修をほとんど受けていなかった。

また、支援に行き詰まりかけていた段階で、始めは緊急避難的な過剰防衛としての力を行使していたと考えられるが、だんだんとその方が通常の支援より楽だと思い、通常の適切な支援の実施に努めずに、安易に暴行を行うことを繰り返していた。

さらに、このような支援方法が、何人かの新たに配属された職員に容易に伝達したと考えられる。周りが安易な方法(暴行)を採っているから自分も安易な方法を、と、つまり、周りがやっているから自分がやっても大丈夫だ、と感覚が幼稚化、そして麻痺し、負の連鎖が発生したものと考えられる・・・

「障害者福祉施設等における障害者虐待の防止と対応の手引き」改訂(案)のポイント

改訂の主旨とポイント

平成25年11月に発生した千葉県袖ヶ浦福祉センターにおける虐待死亡事案等、障害者福祉施設従事者等による深刻な障害者虐待事案が相次いでいること等を踏まえ、「障害者福祉施設等における障害者虐待の防止と対応の手引き」を改訂。そのポイントは以下の通り。

(1) 虐待が起きた場合の対応について

- ① 重大かつ深刻な虐待事案を今後の教訓とするために、実際の虐待事案を記述。
- ② 虐待行為が刑事罰に該当する場合があることを記述。
- ③ 通報義務の履行についてさらに強調。
- ④ 法に基づく事実確認調査に対する虚偽答弁の罰則規定等を記述。

(2) 虐待防止のための体制整備の強化について

- ① 虐待防止の組織的取り組みを促すため、虐待防止委員会、虐待防止マネージャーについてより具体的に記述。
- ② 職場内研修用の冊子を掲載。
- ③ 職員のストレスの把握とメンタルヘルスについて記述。
- ④ やむを得ず身体拘束を行う場合の記録の義務づけについて省令を記述。
- ⑤ 強度行動障害支援者養成研修について記述

強度行動障害支援の現場



＊ 日常的に続く、物損，パニック，他傷，自傷，こだわり行動，行動停止等の問題。つまづきの要因が分からない，改善しない状況⇒当事者状態の悪化，支援職の疲弊感。

＊ 成人施設の女性職員の在勤率の高さ

⇒新卒，非常勤女性職員が成人男性のパニックや他傷行為に遇い、リスクが予測されるケースは少ない男性職員の対応交代など、一時的な処置で日々をしのいでいる。



科学的思考,根拠(エビデンス)に基づく支援



「虐待無き支援」という“フレーズ”のみで、現実が変わるか？

「精神至上主義」のもと「玉砕」を繰り返した先達の姿
⇒当事者状態,支援職の疲弊感と像が重なる。

「障害特性」の理解から、「不幸の悪循環」のメカニズムを理解し、
ひも解いていくことが必要。





強度行動障害支援者養成研修

平成25年 各都道府県指導者研修実施（国研修/主催：国立のぞみの園）

- ＊ 高頻度の自傷・他傷行為等、危険かつ支援困難な強度行動障害の受け入れ可能な事業者の数が極めて少ない。
- ＊ 受け入れる少数の施設にも虐待の懸念がある。
- ＊ 適切で有効な支援による状態の改善事例増加
⇒強度行動障害に対する体系的研修が必要。

■ 「基礎研修」「実践研修」に各都道府県で実施

H27.9月調べ：「基礎研修」 47 全都道府県で開催

「実践研修」 43 都道府県で開催予定

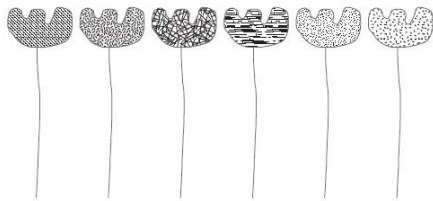


20年以上の科学研究,実践集積により編纂

強度行動障害支援者養成研修【基礎研修】

受講者用テキスト

作成 ■ 強度行動障害支援者養成研修(基礎研修)プログラム作成委員



厚生労働科学研究成果データベース MHLW GRANTS SYSTEM



厚生労働科学研究成果データベース
■ 閲覧システム

■ 研究分野の一覧

■ 担当課情報

■ 研究事業連携表

お知らせ

お問い合わせ

※お問合せ時間：9:30～17:00（平日）
国立保健医療科学院 図書館サービス室
担当：厚労省 Grants System 係

TEL 048-458-6211 FAX 048-469-0326

E-mail libweb@niph.go.jp

初めての方へ

1. 本データベースについて

2. 本データベースの使い方

3. 利用規約について

4. ご利用環境について

5. よくあるご質問

結果表示

詳細表示

再検索

ヒット件数: 19 1

☐ 1.201122037A 強度行動障害の評価尺度と支援手法に関する研究

全て表示

概要版

報告書

行政報告書

研究年度	平成23(2011)年度
総括／総合	総括
研究代表者(所属機関)	井上 雅彦(鳥取大学 医学系研究科)
検索結果	
概要版	...評価研究については昨年度からの総括として、強度行動障害を示す人たちが地域で安心して暮らすのに必要な福祉サービスの形態や量、支援プログラムの検討を検討した。また強度行動障害の状態像の分析と評価方法を検討するため、知...
報告書本文	検索語に一致する情報はありませんでした。
行政効果報告	検索語に一致する情報はありませんでした。
収支報告書	検索語に一致する情報はありませんでした。

☐ 2.201122037B 強度行動障害の評価尺度と支援手法に関する研究

全て表示

概要版

報告書


行政効果報告

研究年度	平成23(2011)年度
総括／総合	総合
研究代表者(所属機関)	井上 雅彦(鳥取大学 医学系研究科)
検索結果	
概要版	...評価研究については、強度行動障害の状態像の分析と旧法による評価基準と行動連携による評価基準の整合性をPARS、ABC-J、Vineland IIなどの評価とともに分析した。また環境要因を評価するための尺度を開発した。支援研究としては、早...
報告書本文	検索語に一致する情報はありませんでした。
行政効果報告	...強度行動障害の重篤さと知的障害と自閉性障害の程度との関連性が示され、特に衝動性と常同性への関連が示された。この点では早期リスクへの評価に繋がっていくと考えられる。なおこの点については2本の書誌付き学術雑誌に掲載された。...



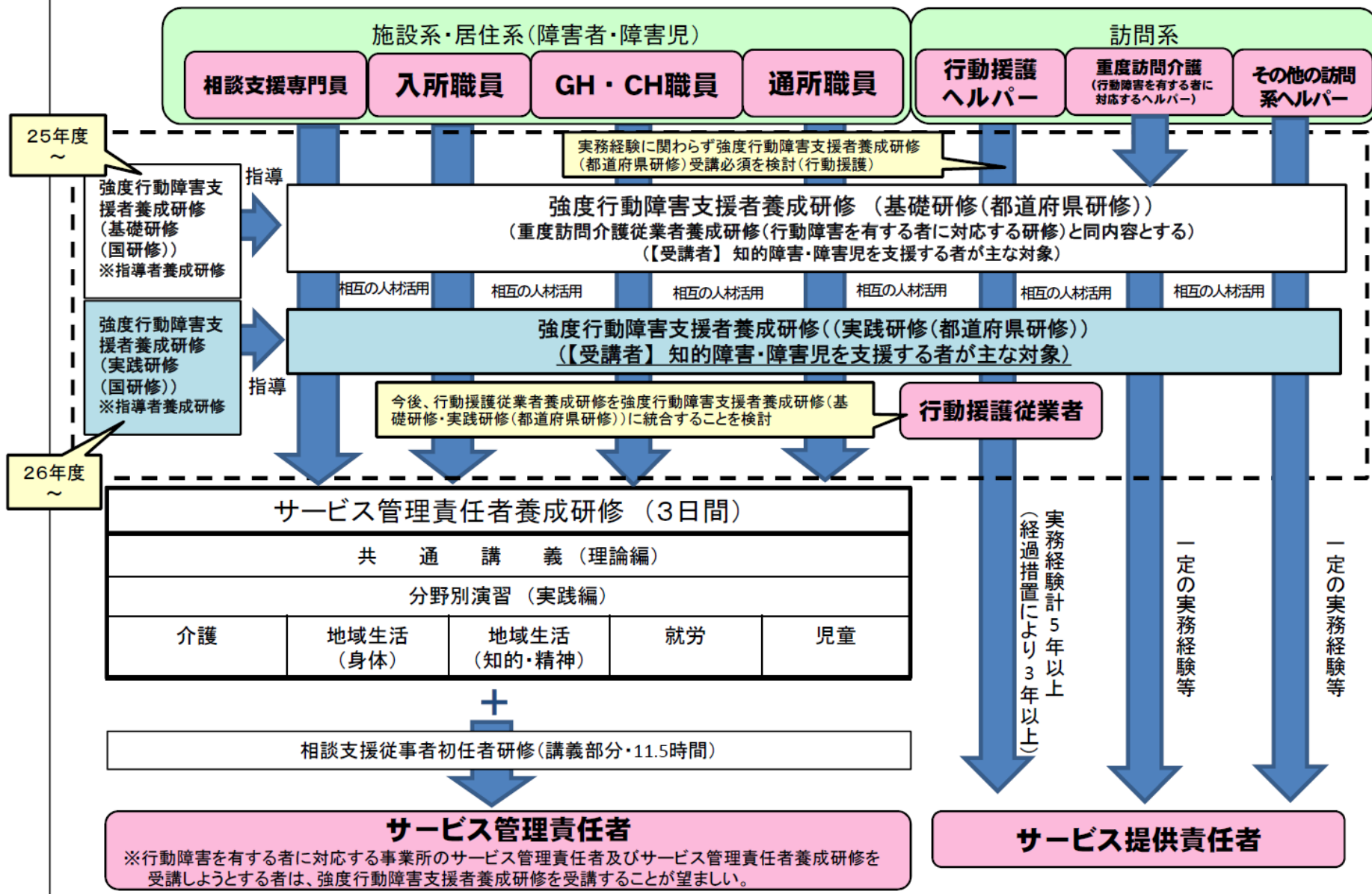
共通する支援の枠組み・指針

～6つの支援方針～

- 構造化された環境の中で
 - 医療と連携しながら
 - リラックスできる強い刺激を避けた環境で
 - 一貫した対応のできるチームを作り
 - 自尊心を持ち一人でできる活動を増やし
 - 地域で継続的に生活できる体制づくりを進める
- 

(平成26年度) 強度行動障害に対応する職員の人材育成の充実について

※ 内容は現時点検討案のため、今後変更の可能性あり。





強度行動障害とは

定義：

精神科的な診断として定義される群とは異なり、直接的他害（噛み付き、頭突き等）や、間接的他害（睡眠の乱れ、同一性の保持等）、自傷行為等が通常考えられない頻度と形式で出現し、その養育環境では著しい処遇の困難な者であり、行動的に定義される群

家庭にあって通常の育て方をし、かなりの養育努力があっても著しい処遇困難が持続している状態

（行動障害児者研究会、1989年）



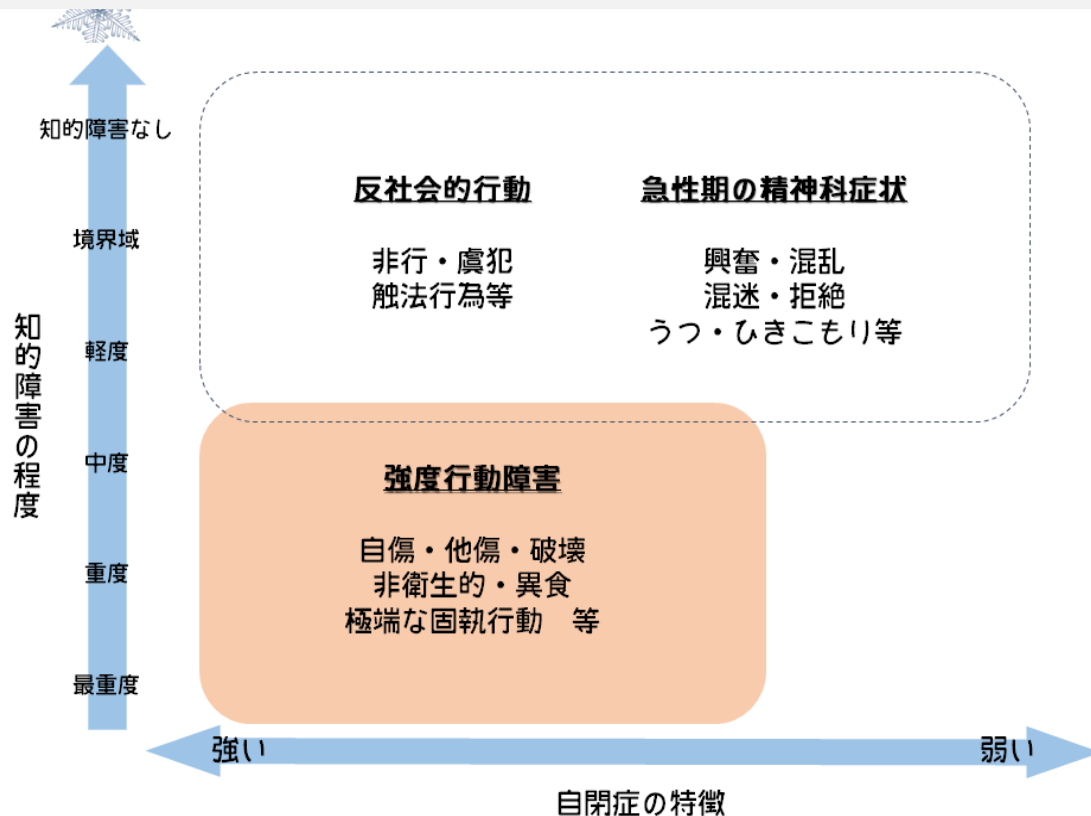
強度行動障害の定義

(強度行動障害支援者養成基礎研修テキスト)

*** 直接的他傷** (噛み付き、頭突き等)

*** 間接的他傷** (睡眠の乱れ、こだわり、行動停止等)

*** 自傷行為** 以上が高頻度と形式で出現、家庭でかなりの養育努力をしても著しい対応困難が持続。医学的診断とは異なり行動的に定義。




○ 強度行動障害の
8割以上が自閉症 (ASD)
といわれている

○ **重度・最重度知的障害**を伴う



行動障害の種類 (行動障害研究会 1989)

- * 食事行為の障害・・・拒食/異食/偏食
 - * 物壊し・・・器物破損/服破り
 - * 他傷・・・噛付き/叩き/蹴り/つねり/殴り/頭突き/粗暴/目突き
 - * 自傷・・・頭突き/顔叩き/傷いじり/爪はぎ/髪抜き/腕噛み
 - * 異常な動き・・・徘徊/飛び出し/多動
 - * こだわり・・・場所, 物, 人, 予定に対するこだわり
 - * 睡眠障害・・・不眠/起き出し/昼夜逆転/浅眠/寝つきの悪さ
 - * 騒がしさ・・・奇声/うなり/大声
 - * 排泄行為の障害・・・便の壁塗り/食便/弄便/飲尿/生理の扱い
- 

強度行動障害 判定基準票 (旧法・平成16年廃止)

項目	行動障害の内容	判定基準表		
		1 点	3 点	5 点
1	ひどい自傷	週に1、2回	一日に1、2回	一日中
2	強い他傷	月に1、2回	週に1、2回	一日に何度も
3	激しいこだわり	週に1、2回	一日に1、2回	一日に何度も
4	激しいもの壊し	月に1、2回	週に1、2回	一日に何度も
5	睡眠の大きな乱れ	月に1、2回	週に1、2回	ほぼ毎日
6	食事関係の強い障害	週に1、2回	ほぼ毎日	ほぼ毎食
7	排泄関係の強い障害	月に1、2回	週に1、2回	ほぼ毎日
8	著しい多動	月に1、2回	週に1、2回	ほぼ毎日
9	著しい騒がしさ	ほぼ毎日	1日中	絶え間なく
10	パニックのもたらす結果が大変なため処遇困難な状態			あれば
11	粗暴で相手に恐怖感を与えるため処遇困難な状態			あれば

＊ 上記判定 10 点以上で強度行動障害と判定

＊ 上記判定 20 点以上で特別処遇の対象 (旧法)



障害支援区分 認定調査 行動関連項目 (現法)


障害支援区分調査項目等	0点	1点	2点
3-3 [㊦] コミュニケーション	1. 日常生活に支障がない	2. 特定の者であればコミュニケーションできる 3. 会話以外の方法でコミュニケーションできる	4. 独自の方法でコミュニケーションできる 5. コミュニケーションできない
3-4 [㊦] 説明の理解	1. 理解できる	2. 理解できない	3. 理解できているか判断できない
4-7 [㊦] 大声・奇声を出す	1. 支援が不要 2. 稀に支援が必要 3. 月に1回以上の支援が必要	4. 週に1回以上の支援が必要	5. ほぼ毎日(週5日以上)の支援が必要
4-16 [㊦] 異食行動	1. 支援が不要 2. 稀に支援が必要 3. 月に1回以上の支援が必要	4. 週に1回以上の支援が必要	5. ほぼ毎日(週5日以上)の支援が必要
4-19 [㊦] 多動・行動停止	1. 支援が不要 2. 稀に支援が必要 3. 月に1回以上の支援が必要	4. 週に1回以上の支援が必要	5. ほぼ毎日(週5日以上)の支援が必要
4-20 [㊦] 不安定な行動	1. 支援が不要 2. 稀に支援が必要 3. 月に1回以上の支援が必要	4. 週に1回以上の支援が必要	5. ほぼ毎日(週5日以上)の支援が必要
4-21 [㊦] 自らを傷つける行為	1. 支援が不要 2. 稀に支援が必要 3. 月に1回以上の支援が必要	4. 週に1回以上の支援が必要	5. ほぼ毎日(週5日以上)の支援が必要
4-22 [㊦] 他人を傷つける行為	1. 支援が不要 2. 稀に支援が必要 3. 月に1回以上の支援が必要	4. 週に1回以上の支援が必要	5. ほぼ毎日(週5日以上)の支援が必要
4-23 [㊦] 不適切な行為	1. 支援が不要 2. 稀に支援が必要 3. 月に1回以上の支援が必要	4. 週に1回以上の支援が必要	5. ほぼ毎日(週5日以上)の支援が必要
4-24 [㊦] 突発的な行動	1. 支援が不要 2. 稀に支援が必要 3. 月に1回以上の支援が必要	4. 週に1回以上の支援が必要	5. ほぼ毎日(週5日以上)の支援が必要
4-25 [㊦] 過食・反すう等	1. 支援が不要 2. 稀に支援が必要 3. 月に1回以上の支援が必要	4. 週に1回以上の支援が必要	5. ほぼ毎日(週5日以上)の支援が必要
てんかん発作の頻度 (医師意見書による。)	1. 年に1回以上	2. 月に1回以上	3. 週に1回以上

*** 上合計 10点以上で
行動援護, 重度訪問介護
重度加算の対象**






虐待防止法との関連



H27. 3. 厚生労働省 配信冊子より
(障害者福祉施設・事業書における障害者虐待の防止と対応の
手引き P24～P28)

[https://www.pref.yamagata.jp/ou/kenkofukushi/
090004/syogaigyakutaiboushi/H27.3tebikisisetu.pdf](https://www.pref.yamagata.jp/ou/kenkofukushi/090004/syogaigyakutaiboushi/H27.3tebikisisetu.pdf)



「虐待防止」の観点から自閉症スペクトラム障害(A S D)が
大半を占める行動障害の支援について以下が記載。

- 「障害特性の理解」
- アセスメント手法
- 「視覚化・構造化等」(自閉症の支援手法)
- 「強度行動障害支援者養成研修」

強度行動障害になりやすいのは

知的障害
〔知的発達症〕

自閉症
〔自閉症スペクトラム症〕

強度
行動障害

「発達」と「障害特性」の両面から見る必要がある

知的障害とは | IQの目安

知的障害の定義

- 発達期（おおむね18歳未満）に遅れが生じること
- 遅れが明らか（IQ70以下）であること
- 遅れにより日常生活への適応に困難があること

20	35	50	70	85	
最重度	重度	中度	軽度	境界域	標準

知的障害(重度・最重度)の状態像

重度 (Severe mental retardation : IQ20-34) ・ ・ ・ A2/Ⅱ

精神年齢 (発達水準) : 3～6歳

言語能力 : ～12歳ごろまでに2語文程度を覚える。

2～4語程度の指示理解は可能

言語のやりとりは1～2往復程度

時間管理 : デジタルの読みは可能⇒日常生活に応用できる時間管理は困難

金銭計算 : 場所 (コンビニ等) や品物、金額⇒限定条件の下、買い物可能

ストーリー理解 : 文章の読みと理解、イメージの関連は困難。単語表現による指示

最重度 (Profound mental retardation : IQ 20以下) …A1/Ⅰ

精神年齢 (発達水準) : 3歳未満

言語能力 : 有意義語の無い人も。意思疎通は本人の生活パターンの理解が必要。

時間管理 : 時計による行動調節は困難。タイマー等利用が可能な場合有

金銭計算 : 自動販売機や特定の商品で金銭利用が可能な場合もある

多くは他者に依存

ストーリー理解 : 限定された単語の理解が可能な場合有。

発語と意味が無関係な場合も

自閉症とは | 三つ組の障害

【三つ組】

社会的相互作用の 質的な障害

人に対する独特な
関わり方

想像力の障害

見通しが持ちにくく
急な変更が苦手

コミュニケーションの 質的な障害

言葉や表情等の使い方
や理解の仕方が独特

【その他】

- 感覚過敏・鈍麻
- 多動
- 睡眠の問題

社会的交互作用の質的な障害

障害特性	実際の場面で想定される行動
①人を意識しにくい または過剰に反応する	<ul style="list-style-type: none">・無視しているような反応・一方的に話す、質問する
②相手の立場に立ちにくい 共感性が乏しい	<ul style="list-style-type: none">・見知らぬ人に話しかける・相手の思いや事情を汲み取れない
③表情や感情を読み取るのが苦手	<ul style="list-style-type: none">・相手が嫌がることも繰り返す・相手が怒っても平然としている
④場の雰囲気を読み取るのが苦手 空気が読めない	<ul style="list-style-type: none">・静かにすべきところでも騒がしい
⑤人よりも物に愛着を示す	<ul style="list-style-type: none">・友だちとの遊びよりもミニカーに夢中になる
⑥自分と人の物の区別がつかない	<ul style="list-style-type: none">・断りなく人の物を持っていく・人も食べ物を食べてしまう



コミュニケーションの質的な障害




障害特性	実際の場面で想定される行動
①話し言葉をコミュニケーションの道具としてうまく使えない	<ul style="list-style-type: none">・言葉を使わず直接行動する・言葉で伝えてもうまく伝わらない・気に入ったフレーズの繰り返し
②文字は読めても意味までは伝わりにくい	<ul style="list-style-type: none">・伝えている内容が伝わらず勘違いしやすい・字義通りに受け取ってしまう
③オウム返し	<ul style="list-style-type: none">・伝えられたことをそのままオウム返しする
④身振りやジェスチャーの理解が難しい	<ul style="list-style-type: none">・ジェスチャー等が（暗黙では）伝わらない
⑤独特のコミュニケーション方法	<ul style="list-style-type: none">・人を叩いてジュースを要求する等

想像力の障害



障害特性	実際の場面で想定される行動
①興味関心が乏しい・狭い・偏る 限局した興味関心に没頭する	<ul style="list-style-type: none">・レジャー施設に行っても無関心・店の商品を並べ替える
②物事や行動の意味理解が難しい ルールや手続きどおりに行動する	<ul style="list-style-type: none">・家のトイレには決まった時間に行くが、外ではトイレに行けない・毎日、同じ服を着ようとする
③経験していないことは難しい	<ul style="list-style-type: none">・初めての場所では不安が強く、行動停止する・指示があるまで待っている・経験したやり方だけにこだわる
④目に見えないことを想像できない	<ul style="list-style-type: none">・時間や予定がイメージできずに待てない
⑤見通しが持ちにくい	<ul style="list-style-type: none">・予定が変更されるとパニックに

その他の特性

障害特性	実際の場面で想定される行動
①感覚の過敏さ、鈍感さ	<ul style="list-style-type: none">・偏食が目立つ・ケガをしても平然としている
②五感への反応が独特で一貫性がない	<ul style="list-style-type: none">・子どもの声には過敏だがTVは大音量で見る
③感覚の選択性の問題 情報の取捨選択ができない	<ul style="list-style-type: none">・電車のアナウンスや周囲の音、親の声が一度に入ってきて、ひとつに注目できない
④シングルフォーカス 一部に意識が向きがちで全体に注意が向かない	<ul style="list-style-type: none">・車が好きかと思ったらタイヤを見るのが好きだった
⑤能力の発達がアンバランス	<ul style="list-style-type: none">・名前は書けないが計算は得意・計算は得意だが支払いはできない



コミュニケーションの困難 (デモ演習)

- 
- 
- ＊言葉の理解が難しい人の感じ方とは？
 - ＊支援者の反応が与える影響は？



日常生活を通しての「困り感」

「自分」に置きかえて
「冰山モデル」を体感して頂きます

独特の行動（問題行動含む）

本人因子(障害特性)

情報処理の違い

本人なりの

不安やストレス

混乱が潜んでいる

相互作用

環境因子

支援者の理解

関わり方

環境・活動の内容

予測される事態・行動

自分の「能力・経験・資格」
(特性)

環境・状況の影響
(環境要因)



❄️ アセスメント(評価)とPDCAの視点

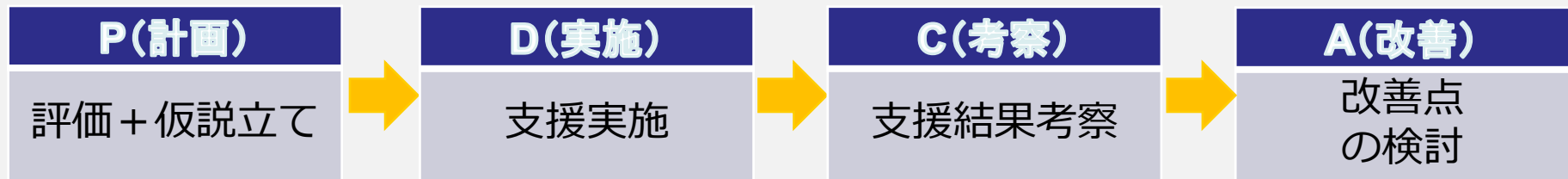
＊アセスメントの無い支援⇒知らずに「無理」させている可能性

＊「自閉症・知的障害の特性」からの行動観察と解釈が必要

■情報を受け取ること・表現することが難しい

■感じ方や考え方が独特で共有しにくい

⇒個別に「わかろうとする努力」と「伝える工夫」が必要



＊「仮説」が本当に合っているかどうか？

評価⇒仮説立て⇒支援⇒結果考察⇒再評価

…PDCAサイクルで考え、「実際に支援」して初めて分かる。

＊違っていたら：再アセスメント＋解釈・計画の修正



「行動」の背景にあるもの

行動障害に対する対応の失敗：

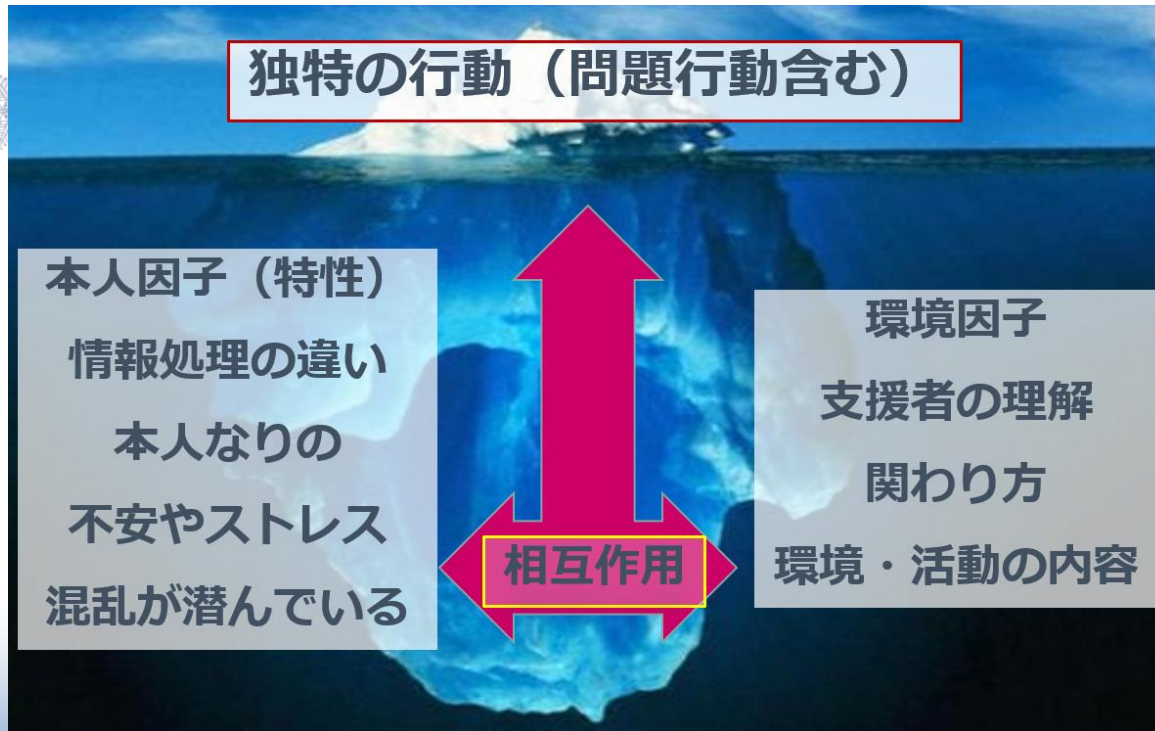
水面上の「行動」のみに注目⇒「注意」「抑止」

⇒**悪循環・虐待リスク**

水面下の「（個別の）特性」と「環境」を考える

⇒具体的配慮への気づき,「実践」を通じて「困難」を知る

⇒**本人理解,共感**





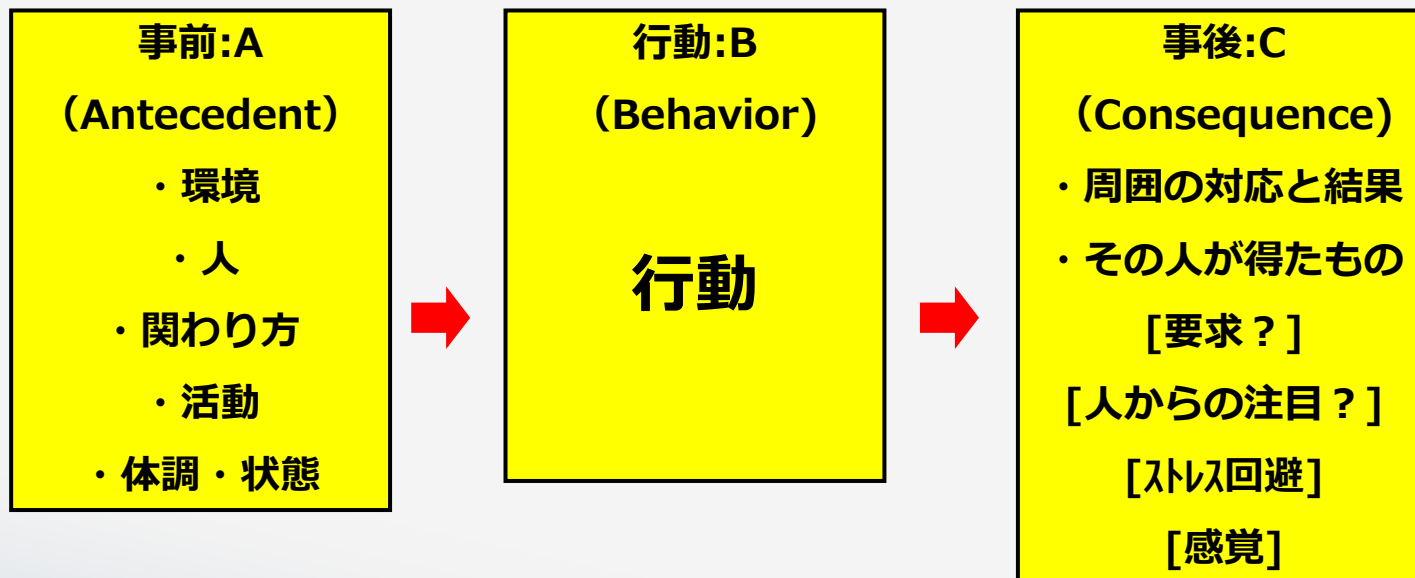
「行動」の背景にあるもの

*「少数派の文化」:

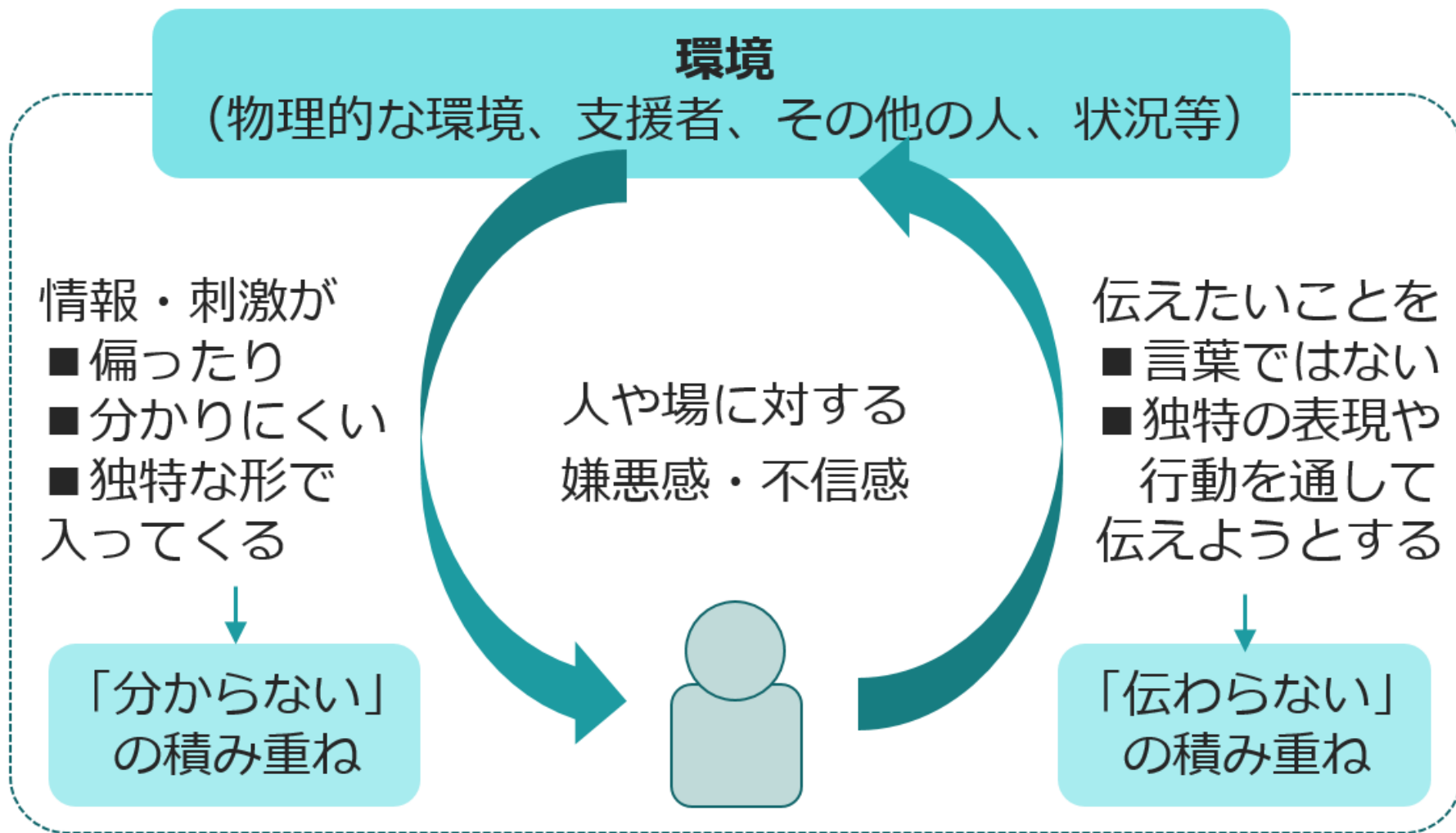
「多数派」(定型発達, 健常者) との感じ方の違いを知る

■ 行動観察の方法 (例 ; ABC分析)

「その人にとって」「その行動」はどうして必要だったのか？
を地道に調べることで, 「その人の感じ方, 文化」が見えてくる。



なぜ強度行動障害になるのか？



障害特性 × 環境要因 ⇒ 強度行動障害



行動障害を取り巻く状況

* 「行動障害」は「個別の特性」と「環境」の相互作用であることが理解されないまま、水面上の「行動」のみが問題にされていないか？

■「行動」制止・消去の為の無理な関わり

⇒身体的虐待等につながりやすい

■「状態悪化」に対して介入しないこと

⇒その状態が「障害だから」という解釈で済ます

これは心理的虐待(蔑視)・ネグレクトになりがち

■本人の学習傾向から、予測される「誤学習」

⇒支援者側から事前に「知らせていない」ことで、

本人が「独特の解釈」で理解したことが、

後で「問題」になり、支援者都合に変更を強いられ

本人達の不信感につながっていないか？

緊急時の対応(行動の制限が必要な場合)

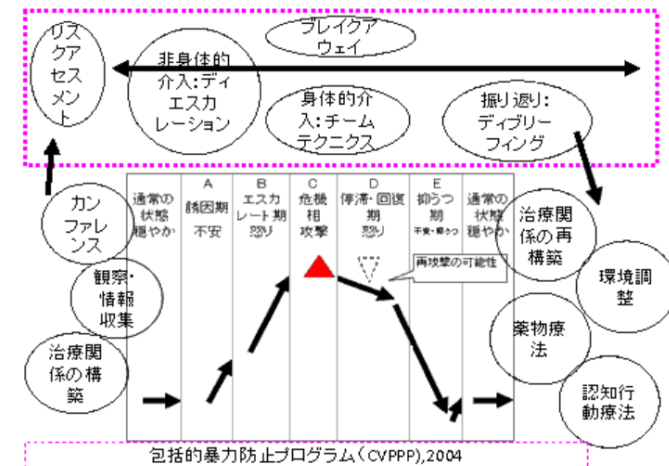
◆身体拘束実施の3要件

- * **切迫性** ; 本人,他者の生命・身体・権利に危険性がある
- * **非代替性** ; 身体拘束その他を行う以外に方法が無いこと
- * **一時性** ; 身体拘束その他行動制限が一時的なものであること

⇒上記3つの要件を全て満たす場合のみ可能,
(但し、慎重に・複数の目で)

◆事前にリスクと対処法を検討

- * 本人,他利用者の安全確保,危険回避方法
- * 混乱・興奮時の対応のマニュアル化
- * 地元警察との連携
- * CVPPP(包括的暴力防止プログラム)等



悪意無き「第六の虐待」

「少数派(自閉症)の文化」が
理解されていないことにより、
「本人にとって」苦痛な関わり・環境が
「気付かれず」放置されていないか？